

2023年度 はつしば学園小学校 学校評価

1 教育目標

<p>学校理念 〈夢と高い志、挑戦、貢献、そして、未来創造〉</p> <p>教育理念 自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する</p> <p>○目指す学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個性を大切にし、将来社会に出て必要とされる様々な力の基礎を育む学校</li> <li>・受験に対応できる学力を育み、内部進学から難関国私立中学校まで幅広い進路選択が可能な学校</li> <li>・初等教育機関として社会的評価を有する学校</li> </ul> <p>○育てたい児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人々との共生と協働の道を探求し、社会で活躍できる子ども</li> <li>・社会の変化に柔軟に対応できる素地を持つ子ども</li> <li>・人間形成の基盤となる豊かな心を持つ子ども</li> <li>・夢を抱き、その実現に向けて取り組もうとする知的エネルギーを持つ子ども</li> </ul>
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成</li> <li>2 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成（主体性、多様性、協働性、学びに向かう力、人間性等）</li> <li>3 豊かな心の育成</li> <li>4 英語教育の充実</li> <li>5 はつしばサイエンス・テクノロジー教育の充実・深化</li> <li>6 支持基盤の確立</li> <li>7 安定した学校運営</li> </ol>
---

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>2023年度入試(2024年度入学)の実績報告等</p> <p>①入口（入学）</p> <p>児童募集において定員90名のところ、出願数108名（前年度107名）、入学者数89名（前年度88名）であった。コロナ禍の制限も解除され、以前の募集活動が出来、入学者も微増へと繋がった。</p> <p>②出口（進学）</p> <p>中学進学においては、内部進学者数30名（前年度24名）、内部進学率は39.4%（前年度28.9%）であった。外部難関中学校の受験では、東大寺1名、西大和2名、四天王寺5名、清風南海14名等の合格者を出すことが出来た。</p> <p>③保護者アンケート</p> <p>保護者アンケートは、年1回（12月実施）。全30項目中、肯定的評価85%以上の項目は、30項目中、29項目であった。「わが子を入学させて良かった」の設問では、過去5年間94～96%で高い評価を維持出来ている。前年度より評価が上昇している項目は、20項目、下降している項目は6項目であった。</p>	<p>①委員会の体制</p> <p>地域代表者（登美丘南校区自治連合会会長） 保護者代表（保護者会会長） 学識経験者（大学講師） 校長・教頭・事務長</p> <p>②委員会の実施日</p> <p>第1回 2023年11月（実施）、第2回 2024年3月（実施）</p> <p>③自己評価の結果に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの「入学させて良かった」が5年平均で高い数値であることで保護者の満足度が得られていることが分かる。地域からの入学者をもっと増やしてほしい。これからも小学校が栄え、地域と連携した取り組みが出来ればよいと思う。</li> <li>・英語教育の充実及び改革を進める一方で、国語教育の重要性を大事にし、英語教育に繋げてほしい。</li> <li>・保護者としては、毎日子どもが「学校が楽しい」と言い登校していることに感謝している。2023年度は管理職(校長、教頭、事務長)が変わり、変化があった。保護者会の役員として、学校への理解が深まった。次年度も子ども達にとって良い事業を学校と保護者会で協働し行っていきたい。</li> </ul>

4 本年度の取り組み

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度テストの学年別現状分析・課題整理と継続検証</li> <li>・改善内容の整理、計画をした上での実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部進学率及び難関中学校の合格実績の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度テストは予定通り行った。各学年で、結果分析を行い、今後の指導に生かした。</li> <li>・外部難関中学への合格者は、東大寺、西大和、四天王寺、清風南海など一定数合格者を出すことが出来た。</li> <li>・内部進学率は前年度を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の到達度テストも年間2回行う</li> </ul>
	(2) 授業内容の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実</li> <li>・教科研究のもと新任研修を実施、教員の授業レベル向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画通りの校内研の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に2回、年間6回の校内研を実施した。</li> <li>・新任研修として研究授業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研は来年度学期に2回、年間6回行う予定</li> </ul>
	(3) 進路指導体制の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別学習(高学年)の課題整理</li> <li>・算数、国語の習熟度別授業の実施と効果的指導の検証</li> <li>・教科による学習到達度を明確にし、授業を充実し個々の学力向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年で習熟度別授業を実践、その効果を検証する。その上で授業改善に活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語と算数での習熟度別授業では、各受験中学校別に展開し、行った。</li> <li>・特に後半は受験校別の対策が行えたことにより一定の効果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も今年度と同様のクラス数で行う</li> </ul>
	(4) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部中学校のプレテストや入試問題の研究</li> <li>・保護者への周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレテストの積極的受験や入試対策の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年では10月より、内部中学校のプレテスト対策を算数、国語で実施。プレテスト受験者は、初立、初富共に前年同様であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も積極的受験を勧め、対策を行う</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>この結果として、プレテストの受験数が内部進学に直結するものでないことが分かる。今後、分析の必要がある。</li> </ul>	
2 社会の変化に柔軟に対応できる力の 素地養成	(1) 「グループ・ペア学習」の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年研、教科研の計画実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グループ・ペア学習」が実践できたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科部会や学年でグループ・ペア学習に取り組んだ。授業で使うジャンプの課題についても各学年、教科で研究した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ・ペア学習の目的を明確にし、学校全体で取り組みを充実させる</li> <li>グループ・ペア学習を深化させるため、来年度も校内研を実施する</li> <li>2、3年の宿泊学習は、実施時期を秋に変更する</li> </ul>
	(2) 宿泊体験学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊活動実施後の検証・改善</li> <li>各学年で実施する宿泊活動の内容を検証し次年度へ繋げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートの満足度が上昇したか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナを終えて、全学年で宿泊学習を実施した。</li> <li>保護者アンケート「運動会や宿泊行事など、学校行事は楽しく充実している。」は上昇した。児童アンケートは前年同様に高評価を得た。</li> <li>5年生による海外研修旅行プログラムの実施。オーストラリア・ケアンズ(5泊6日)の研修旅行は、充実した内容であり、参加児童、保護者からも高評価を得た。</li> </ul>	
3 豊かな心の育成	(1) あたり前のことをあたり前にする心(思いやり・自主自律・公正公平・勤勉など)の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりの心の育成</li> <li>道徳部会を中心に授業実践研究、評価のあり方を検討</li> <li>自問清掃の見直しと改善(振り返りノートの導入と道徳との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通りに実施できたか</li> <li>振り返りノートの記入で心の変容をみることができたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の研究授業で道徳授業を実施し、教員の授業力向上につながった。</li> <li>評価のあり方までは検討できず、課題を残すこととなった。</li> <li>自問清掃は各学年相応の成長が見られるところがあった。今後も深められる余地はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会、道徳部会を中心に優れた授業実践を共有。共有フォルダに指導案を保存、共有</li> <li>学年会を中心に、自問清掃の意義や実践方法を共有。ノートによる振り返りを積極的に導入</li> <li>道徳授業や自問清掃等の様子を学年ブログで保護者に周知</li> <li>参観授業で道徳を積極的に行う</li> <li>生活アンケートの保管管理の徹底</li> </ul>
	(2) 児童支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談体制の充実</li> <li>サポート会議を軸とした教員間の情報共有</li> <li>スクールカウンセラーと連携し、学校・保護者との共通理解を図る</li> <li>学校の取り組みを保護者へ周知する</li> <li>いじめ対策の見直しと改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇</li> <li>教育相談、サポート会議等が計画通りに実施できたか</li> <li>学校評価の保護者への公開</li> <li>いじめの早期発見・解決を可能にできたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「豊かな心の育成をめざした取り組みを行っている」は前年度と同じ肯定的評価だった。</li> <li>保護者アンケート「いじめのない学校風土作りをめざした取り組みを積極的に進めている」は4ポイント減少した。</li> <li>教育相談、サポート会議は計画通り実施できた。</li> <li>1月に保護者アンケートについて情報公開を実施した。</li> <li>生活アンケートを毎月実施。サポート会議で共有している。</li> </ul>	
4 英語教育の充実	(1) 英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化	<ul style="list-style-type: none"> <li>4技能をバランスよく育成</li> <li>各学年の指導目標の明確化と目標達成のためのカリキュラム作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語4技能をバランスよく育成できたか</li> <li>学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4技能のテストを実施した。事前に個別指導をすることで、再テストとなる児童が昨年と比較して大幅に減った。</li> <li>フォニックステストを導入した。下位の児童のスペリングと発音に対する力をつけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートでは、英語教育についての高評価を維持向上させる。</li> <li>個別の対策は今後も続け、さらなる英語活動の工夫で、アンケートの満足度上昇を目指す</li> <li>プレゼンテーションは今後も続ける</li> <li>レシテーションコンテスト入賞者目標1名以上</li> <li>習熟度別授業実施</li> <li>英語科と担任団が一丸となって英検指導(学年ごとの数値目標設定)</li> <li>タブレットのアプリ(WeblioStudy)</li> </ul>
	(2) 授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「GrapeSEED」の実践とその効果検証</li> <li>ネイティブ講師と日本人英語教員との連携による授業実践の充実</li> <li>主教材を軸として学齢の興味に沿った教材の選定と実践</li> <li>校内レシテーションコンテストの全員参加(3~5年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業評価アンケート」の満足度上昇</li> <li>新教材の導入はできたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度 English Code を採択、2023年度 Weblio を採択し、テーマに沿ったプロジェクトなど、児童主体の活動ができた。</li> <li>レシテーションコンテストについて、クラス予選→学年代表→学校代表とした結果、皆のモチベーションが高くなり、英語発信力の向上になった。</li> </ul>	
	(3) 上位層を伸ばす仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語によるプレゼンテーション活動の充実</li> <li>インタークラスでは発展的内容を盛り込んで児童の意欲を伸長する</li> <li>校内レシテーションでの優秀者を西日本レシテーションへ参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語プレゼンテーション活動は計画通りできたか</li> <li>活動に工夫を加え充実が図れたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西日本私立小学校連合会主催レシテーションコンテストでは上位入賞者2名を出した。</li> <li>計画は変更することがあったが、スライド作成、発表をすることができた。</li> <li>ビデオ教材や English Code を部分的に活用した。</li> </ul>	
	(4) 英語力の検証システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>英検受験のための計画と受験対策</li> <li>英検受験の上位級(3級以上)取得者の増加</li> <li>英検へのモチベーション向上のため準2級以上取得者の掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英検の取得率上昇並びに上位級取得者が増加したか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英検取得率を上昇させるため、上位層の掲示など見える化と現状把握を徹底した。</li> <li>習熟度別授業実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>を活用した個別最適化学習</li> </ul>

5 はつしばサイエンス・テクノロジー教育の充実・深化	(1) 理科に関心を持つ心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学受験に対応した学習支援</li> <li>・ 学教評価アンケートの上昇</li> <li>・ 理科担当教員の授業力向上</li> <li>・ 「はつしばサイエンス」の見直し</li> <li>・ 校内到達度テストの検証、得点力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画通りに実施できたか</li> <li>・ 学校評価アンケートの上昇があったか</li> <li>・ 理科部会を定期的に行うことができたか</li> <li>・ 生活科のカリキュラムを見直し理科を意識した授業が行えたか</li> <li>・ 到達度テストの得点力向上ができたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理科部会を定期的に行い、横断的に学年を超えて、理科担当教員の授業力向上のための機会が持てた。</li> <li>・ はつしばサイエンス始動のため初芝立命館高等学校のサイエンスラボ利用の研修を行った。</li> <li>・ 保護者アンケートにて過去5年間で最高評価を得た。</li> <li>・ 到達度テストについては、国語・算数の下降が見られ、社会については、上昇している。国算の学力が、進学に結び付くことを鑑みて、今後更なる対策が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初立中高のサイエンスラボの具体的活用をする(サイエンスとテクノロジーを融合させた学習)</li> <li>・ デジタル機器(3Dプリンター、デジタルカッター、デジタルミシン)の積極的活用のため、「デジタルクリエイターズ」というクラブを新設</li> </ul>
	(2) プログラミング学習の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教育実施に向けての実践と研修及び内容検討</li> <li>・ ICT環境の整備</li> <li>・ 次年度以降の実践に向けた準備と研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教育の実践方針が策定できたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～5年生で、グローブノーツと提携の上、テクノロジー教育を新たに実践し、研究に努めた。</li> <li>・ 保護者アンケート(「ICT機器を活用した効果的な授業を進めている」)でポイントが向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iPadを活用し、はつ小にあった独自のテクノロジー教材の開発。修学旅行や卒業に向けての活動時に利用</li> </ul>
6 支持基盤の確立	(1) 「はたちの集い」の継続  ※18歳成人を受けて、名称を成人の集いからはたちの集いへ名称変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第6回はたちの集い」の継続開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第8回はたちの集い」を実施し、参加者は卒業生の約6割が参加したか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月小学校で「はたちの集い」を行い、卒業生94名中、54名(56.3%)が参加</li> <li>・ その後、行われた保護者主催のスィスホテルでの集いには40名の成人と、その保護者20名が集まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近況報告などと共に、子ども達の進学大学なども把握することができるので、継続する</li> <li>・ 来年度以降も、はたちの集いの際に、アンケートを行い、同窓会を立ち上げ、各期ごとに卒業後の進路調査を行う</li> <li>※2025年度「同窓会」の発足に向けて始動。</li> </ul>
	(2) 卒業生への連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業生交流サイトの構築と活用の検討</li> <li>・ 卒業生の進学並びに進学後の追跡調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業生交流サイトは構築できたか</li> <li>・ 卒業生の進学先並びに追跡調査はできたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流サイトは構築されていない。</li> <li>・ 2025年に同窓会を発足するために、1期生、2期生を中心に話し合いがスタートした。</li> <li>・ 「はたちの集い」を行った際に、8期生の進学先などの調査は7割近く行うことができた。</li> </ul>	
	(3) 保護者会との教育連携と支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者会との教育連携強化の計画実施</li> <li>○ 運動会、ペットボトルロケットやお味噌作り等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者会と教員とが連携して行事が出来たか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例年通りの実施が出来た。コロナが明けたことで卒業謝恩会を盛大に実施できた。</li> </ul>	
7 安定した学校運営	(1) 募集定員(90名)の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問地域、訪問幼児教室等の重点化</li> <li>○ 和泉市並びに近隣市町村への積極的な重点訪問</li> <li>・ 募集行事や外部説明会の参加者数増加</li> <li>○ 幼児教室との連携強化</li> <li>・ 広報活動の積極的展開</li> <li>○ 募集関係行事の充実</li> <li>○ 外部での説明会の内容検討及び校内説明会等への誘導強化</li> <li>○ 校内説明会の内容の工夫と目的の明確化</li> <li>○ 「はつ小だより」の活用</li> <li>・ はつしば学園幼稚園との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重点地域への募集活動強化ができたか</li> <li>・ 園や幼児教室と連携した外部での説明会等が実施できたか</li> <li>・ 校内説明会の内容を工夫し、入学希望者の参加が上昇したか</li> <li>・ はつしば学園幼稚園との連携が計画通りに実施できたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学試験、転入試験、募集行事の時期、内容に応じたきめ細かな訪問活動を行った。</li> <li>・ 「大阪チャレンジ」として、大阪市内への募集活動を強化した。</li> <li>・ 幼児教室、インターナショナルスクール、園の訪問数は過去最高となった。</li> <li>・ 訪問時には、校長の「はつ小だより」を持参し好評を得た。</li> <li>・ 説明会後に本校で実施の募集行事(学校説明会・学校見学等)への参加を促進。</li> <li>・ 1次入試以後、校外説明会を積極的に行った。</li> <li>・ とびこみの出願はほとんどなく、複数回募集行事に参加をし、出願につながるケースがほとんどであった。</li> <li>・ はつしば学園幼稚園との連携は計画通りにほぼ実施できた。さらに、年少・年中のサロンを副理事長の講演会を含む学校見学に変更し、本校の魅力をより効果的にアピールできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き近隣市町村の訪問活動を丁寧に行い 受験児の情報を確実にとらえる</li> <li>・ 大阪市内の受験児(保護者)に学校訪問を促す手立てを考える</li> <li>・ 外部説明会、子育て講演会を引き続き実施するとともに実施回数増を目指す</li> <li>・ 校内説明会の内容は2023年度同様に各回の特色を活かし実施する</li> <li>・ はつしば学園幼稚園との連携は2024年度に、より充実させる</li> </ul>